

2015年度 大学院言語文化研究科附属言語文化研究所事業一覧

○中日韓語言文化比較研究国際学術研討会

(第3回日中韓言語・文化に関する国際学術シンポジウム)

2015年10月16日(金)、10月17日(土)

於：北京外国語大学

基調報告：

第一講演：野島 正也(文教大学学長)

「『老い』の文字表現と高齢社会のゆくえ」

司会：宮武 利江(文教大学教授)

第二講演：牟 世鍾(韓国日本言語文化学会会長)

「日本語教育の人文学としての価値と必要性」

司会：金 慶恵(韓国日本言語文化学会副会長)

第三講演：王 志松(北京師範大学教授)

「幻想と世界—夏目漱石の『超自然物論』と文学の想像力」

司会：邵 建国(北京外国語大学教授)

分科会発表

文学分科会：発表12件

発表者：白井 啓介(文教大学)

「二つの『不如帰』—翻訳と翻案の間」他

言語分科会1：発表14件

言語分科会2：発表14件

発表者：蔣 垂東(文教大学)

「言語史資料としての『増補華夷通商考』」他

社会文化分科会：発表8件

発表者：長谷川 清（文教大学）

「ミャンマーから来た仏像—改革開放期・中国の仏教復興
と『功德』の実践」

阿川 修三（文教大学）

「19世紀の東アジアにおける西洋事情受容の一側面 —魏
源撰『海国図志』和解本（日本語抄訳本）等の刊行につ
いて」他

院生フォーラム：発表8件

I. 研究部事業

①研究員による基礎研究

糸井 江美（文学部准教授）

「英語教員養成における英語絵本の活用」

②研究員による共同研究

○特別研究

テーマ 「グローバルに関心を持つ
Global Curiosity」

代 表 者 リチャード A. ローガン（文学部教授）

分 担 者 グラハム児夢（文学部准教授）

蔣 垂東（文学部教授）

唐 亮（言語文化研究所準研究員）

陳 澤佳（言語文化研究所準研究員）

長谷川 清（文学部教授）

邵 建国（北京外国語大学教授）

李 晨 (言語文化研究所準研究員)
施 俊艷 (言語文化研究所準研究員)

○一般研究

三枝 優子 (文学部専任講師)
菅谷 有子 (文教大学非常勤講師)
宮部真由美 (文教大学非常勤講師)
蔣 垂東 (文学部教授)
稲垣 泰一 (元文学部教授)
程 玲 (中国厦門理工学院教授)
張 晶 (杏林大学博士後期課程)
王 倩 (杏林大学博士後期課程)
大瀧 幸子 (文教大学非常勤講師)
平川眞規子 (文学部教授)
浅野 明代 (東京国際大学教授)
鈴木 一徳 (言語文化研究所準研究員)

③研究例会

第 1 回 2015年6月24日 (水) 16:20 436R
発表題目 「テ形節と時制・モダリティ」
発表者 鬼山 信行 (文学部日本語日本文学科教授)

第 2 回 2015年11月25日 (水) 16:20 437R
発表題目 「当麻曼荼羅と中将姫」
発表者 日沖 敦子 (文学部日本語日本文学科専任講師)

第 3 回 2016年 2月 3日 (水) 16:20 416R

発表題目 「戦後日本女性の政治参加研究」

発表者 施 俊艶 (言語文化研究所準研究員)

発表題目 「肯否述語両用の副詞『ぜんぜん』について」

発表者 陳 澤佳 (言語文化研究所準研究員)

④紀要発行

2016年 3月 15日発行 『言語と文化』第28号

⑤2014年度研究員による基礎研究の報告

1. 研究題目 「典型発達児と自閉症スペクトラム児における
ナラティブの発達と支援」

研究者 小野里 美帆 (教育学部准教授)

※「言語と文化」第27号に論文が掲載されています。

2. 研究題目 「北朝鮮ドラマの基礎的研究」

研究者 山下 英愛 (文学部教授)

⑥2014年度研究員による共同研究の報告

研究題目 「多文化理解への架け橋
Bridges to Multicultural Understanding」

代表者 リチャード A. ローガン (文学部教授)

分担者 会沢 信彦 (教育学部教授)

葛貫 庸子 (松実高等学校初等部校長代行)

菅野 純 (早稲田大学人間科学学術院教授)

稲垣 泰一（文学部教授）
名嘉 友子（言語文化研究所準研究員）
三枝 優子（文学部専任講師）
菅谷 有子（文教大学非常勤講師）
蔣 垂東（文学部教授）
趙 仲（言語文化研究所準研究員）
唐 亮（言語文化研究所準研究員）
長谷川 清（文学部教授）
姜 瑛（言語文化研究所準研究員）
李 晨（言語文化研究所準研究員）
平川眞規子（文学部教授）
浅野 明代（東京国際大学教授）
鈴木 一徳（言語文化研究所準研究員）

平成26年度の共同研究は、「多文化理解への架け橋：Bridges to Multicultural Understanding」というテーマをもとに、各分野から研究された。それぞれの研究成果は、研究会や紀要「言語と文化」第27号にて発表された。

【紀要】

- 1) 稲垣：「『西国三拾三所由来』について - 解説並びに翻刻 -」
- 2) 平川：「中国語・タガログ語を母語とする日本語学習者のナラティブ発達 - 日本語母語話者との比較 -」
- 3) 趙：「ヲ格とニ格の使用から見る心理動詞の語彙的特徴 - 心理動詞述語文を中心に -」

【研究例会】

- 1) 李：「昭和研究会の思想と活動 - 1938-1939年を中心に -」
- 2) 唐：「原因・理由節におけるル形の性質と時間前後関係」

研究部より

リチャード A. ローガン

今年度も研究部を担当させて頂いた。大学院付属の研究所として、先生方や院生のために少しでもお役に立つよう努めた。蔣垂東所長や岡山さんからご助力を得て、計画した研究活動を無事に終えることができた。

今年度の共同研究のテーマ「グローバルに関心を持つ」を基に、各分野（日本文学、日本語教育、英語教育、中国語、社会学など）から研究がなされた。多文化時代に相応しく、それぞれ多角的な観点から研究がなされた点で、今後大いに成果が期待される。今年度の紀要にも興味深い研究論文が多数寄せられた。

研究部は毎年研究定例会を開催している。詳細は前述の活動報告を見ていただくとして、今年度第一回は文学部教授鬼山先生に、第二回は、文学部専任講師日沖先生に、第三回は準研究員の施さんと陳さんのお二人にそれぞれ発表をしていただいた。さらに充実した研究会にすることができ、感謝申し上げます。

このように充実した研究活動が行えるのは、共同研究と基礎研究にご参加頂いた先生方、ならびに紀要掲載論文をご執筆くださった先生方のお陰である。そして研究定例会で発表された先生方、院生、研究員の皆

さんのご協力も必要である。これからも言語文化研究所へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

II. 研修部事業

①夏期公開講座報告

(1) 英語教育夏期講座

－英語を学び続ける－

対 象：中学校・高等学校英語科教員または教員志望者。

埼玉県内在住または勤務する方。

目 的：英語教育についての理解を深める

期 日：平成27年7月31日（金）

会 場：文教大学越谷校舎 3号館（3401R）

参 加 者：58名

講義・発表内容

講義① 「日本語・英語の音声システムの違いと発音・聞き取りの習得」

川崎 貴子（法政大学）

母語と第二言語の違いは、第二言語を学ぶときにエラーにつながります。とりわけ音声分野では言語間の違いが問題につながることが知られています。ご存知のように、英語の音で日本語に存在しない音は発音・聞き取りともに難しいことが多いです。今回の講義では、日本語と英語の音声システムがどのように異なるか、いくつかの例を挙げてご紹介します。そして、どのような指導が習得の促進につながるのか、考えていきたいと思えます。

講義② 「多言語・多文化への『気づき』からはじまる言語学習」

山川 智子（文教大学）

現代社会で生きていくための様々な問題解決能力のひとつは、多言語・多文化への「気づき」から育まれます。しかし私たちは、未知の言語や文化に対して躊躇いなく心をひらくことがなかなかできません。本講座では、身近な異言語・異文化理解を積み重ねることが、「国際」理解への素地を育むことにつながり、さらにはそれが英語学習への本質的な動機づけをも生み出す、ということに参加者とともに考えていきたいと思います。

講義③ 「学習者オートノミーを育む英語指導者の役割」

小嶋 英夫（文教大学）

文部科学省は、教育の再生に向けて「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を推進しつつあります。今後は、小・中・高を通じた一貫性のある英語教育が強調されます。本講義では、これに通じる教育理念の一つとして、生涯学習にもつながる「学習者オートノミー」の育成を取り上げ、それを支える英語指導者の役割について、日常の英語授業と関連させながら、皆さんと一緒に考えます。

（2）日本語教育夏期講座

－ 音声を学ぶ・教える －

対 象：現在日本語教育に携わっている方、または日本語教育に関心のある方。埼玉県内在住または勤務する方。

目 的：日本語教育についての理解を深める

期 日：平成27年7月31日（金）

会 場：文教大学越谷校舎 3号館 (3301R)

参 加 者：18名

講義・発表内容

講義① 「音声言語の重要性」

城生 佰太郎（文教大学）

1. ことばの表現形態 ▶ 1. 1 音声言語 1. 2 文字言語
1. 3 行動言語
2. 音声言語と文字言語 ▶ 2. 1 大脳における情報処理の違い
2. 2 文字は音声よりもあとで発生する 2. 3 音声言語と文字
言語とのギャップ
3. 日本における音声教育 ▶ 3. 1 巧言令色鮮矣仁 3. 2 フラン
スにおける音声教育 3. 3 モンゴル国の小学校4年生用教科書
4. 音声言語の特質 ▶ 4. 1 情報量 4. 2 言語の本質
4. 3 一過性
5. 音声をとらえる視点 ▶ 5. 1 分節音とプロソディー（非分節音）
5. 2 プロソディーの重要性
6. 外国語教授法への応用 ▶ 6. 1 フランスのLa France en direct
(1969), Didier 6. 2 松崎寛博士開発の「プロソディー・グラフ」

講義② 「アクセントを楽しんで覚えよう！」

松崎 寛（筑波大学）

自然な日本語を話すには韻律が大切。韻律を実現するにはアクセントが大切。…ですが、「すべての語のアクセントを覚えるのは負担が大きく、無理」「学習者が嫌がるからやらない」「アクセントが正しくなくても会話はできるから、気にしなくて良い」というご意

見もよく聞きます。確かにアクセント指導は難しいですが、楽しく覚えるやり方もありますよ。簡単なアクセント指導法について、ブラッシュアップしてみましょう。

講義③ 「発音がうまい人は、なぜ発音がうまい？」

松崎 寛 (筑波大学)

「長い時間かけて何度教えても発音がよくなるしない」「発音がよくなったと思ったら、すぐ元に戻ってしまった」「同じように教えているつもりでも、発音が上手な人と上手でない人がいるのは何故？」そんなお悩みの声をよく聞きます。

この時間は、そういった教育現場の疑問に対して、様々な観点から、みなさまと解決方法を探っていきたいと思います。

(3) 中国語教育夏期講座

－新しい視点からの中国語学習－

対 象：現在中国語教育に携わっている方、または中国語学習者。埼玉県内および近郊に在住または勤務する方。

目 的：中国語教育・学習についての理解を深める

期 日：平成27年7月31日（金）

会 場：文教大学越谷校舎 3号館（3307R）

参加者：29名

講義・発表内容

講義① 「日本語との緊密性に着眼する中国語学習について」

何 蔚泓 (北京外国語大学)

語順からみると、動詞が目的語の前に置かれるという点で中国語

と英語が同じなため、中国語の語順は英語に近いと思われがちです。しかし、三者をよく比べると、中国語の語順は意外と日本語により近いです。具体例をあげながら、中国語と日本語の緊密性および日本語との緊密性に着眼する中国語学習についてお話しします。

講義② 「高校における中国語教育の状況と展望

—日本の外国語教育を考えながら—

藤井 達也（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）

「高校で中国語を教えています。」と言うと「えっ、そんな学校があるんですか」という返事が返ってくることは珍しくありません。80年代から現在までの日本の高等学校における中国語教育の状況（開設数・実施単位・担当教員の状況など）を概観しながら、その実践の様子や代表的な実施校の開設状況などを紹介したいと思います。また、そうした話を通して初等・中等教育の外国語教育のありかたについても述べてみたいと思います。

講義③ 「中華料理のレシピを読んでみよう—レアリアで学ぶ中国語」

植村 麻紀子（神田外語大学）

料理のレシピには、食材、調味料、野菜の切り方や調理法、味付け、盛り付けなど、レシピ特有の用語や表現が多く見られます。今回の講座ではレシピを読んでそれらを学ぶとともに、自然な日本語に翻訳するコツ（7つのキーワード）をお話しします。自宅でも気軽に作れる本格中華のレシピです。受講後は是非お試しください。

英語教育夏期講座

日本語教育夏期講座

中国語教育夏期講座

書写書道教育夏期講座

(4) 書写書道夏期講座

- 対 象：小中学校国語（書写）、高等学校書道担当教員。
書道愛好者。埼玉県内在住または勤務の方など。
- 目 的：書写書道教育についての理解を深める
作品制作を通じて、書の表現力を高める
- 期 日：平成27年7月30日（木）・7月31日（金）の両日
- 会 場：文教大学越谷校舎 4号館（422R・426R）
- 参 加 者：49名

講義・発表内容

A（書文化）コース

426R

- 講義① 創作（1）・創作の手順
- 講義② 創作（2）・漢字の書を中心に作品の構想を練る
- 講義③ 創作（3）・構想をもとに試書する
- 講義④⑤ 創作（4）・小品（半切以下）を仕上げる
- 講義⑥ 講義 ・書の鑑賞の態度
- 講師：吉沢 義和（元文教大学文学部教授）

書作品の創作と鑑賞について学びます。書作品制作の過程・手順を学び、漢字を素材とした創作に取り組みます。受講者によって書道経験はそれぞれですが、創作のための基礎から学び、小品作品を仕上げてみましょう。また、制作した作品を通して、作品の鑑賞方法についても学びます。

- 講義① 学習指導要領概説 (小中高)
- 講義② 実技 (1)・基本的な用筆法・運筆法
- 講義③ 実技 (2)・漢字 (楷書)
- 講義④ 実技 (3)・漢字 (行書)
- 講義⑤ 実技 (4)・平仮名・片仮名
・漢字仮名交じりの書
- 講義⑥ 実技 (5)・その他 (草書・隸書・篆書・仮名など)
- 講師：豊口 和士 (文教大学)

小・中学校国語科書写、高等学校芸術科書道の指導に必要な知識・技能について、基礎基本となる事項について学びます。技能面では、基本的な用筆法・運筆法から始め、書写および書道の学習領域全般について幅広く確認していきます。また、小中高学習指導要領のポイントを概説します。

②異文化体験講演会

日 時：平成28年1月13日 (水) 16:20～17:50

演 題：「ナイジェリア、ニジェール、ハウサの国の食生活」

ナイジェリア北部からニジェールにかけて広がるハウサランドとつきあいはじめて30年近くになります。慢性胃炎が治ってしまう食生活って何でしょう？滞在中から具合が悪く感染症だと思っていたら冷えだったし？滞在中に出会った生活の中の不思議を中心にお話したいと思います。

講演者：中村 博一 (人間科学部人間科学科教授)

研修部より

グラハム 児夢

夏期講座は、例年通り好奇心旺盛な参加者に恵まれ、リピーターの方も初めての方も、蒸し暑さに負けず、楽しみながら積極的に視野を広げた。

今年も書写書道講座は二つに分け、元文教大学文学部教授吉沢義和先生、本学文学部の豊口和士先生が、それぞれの指導のもとで書道の鑑賞方法や創作の取り組み、そして学校での指導に無くてはならない技能のノウハウを強調された。7月30日(木)、7月31日(金)二日間に渡って、49名の熱心な受講者が書写書道の講座に参加した。

三号館を会場にした、語学関係三部門のメニューも盛りだくさんで、合わせて95名が参加した。

日本語教育のテーマは主に音声関連であった。始めに、本学文学部教授の城生佰太郎先生が国際的な展望から音声言語の特質などについて講

義した。その後、筑波大学の松崎寛先生が、普段学習者に嫌われる「アクセント」の習得を如何に楽しく教えれば良いのかを指導した。最後に、発音が上手くできるようになる学習者と、それが難しい学習者との間でのギャップが何故存在しているのかという観点も興味深いものだった。受講者数は18名。

一方、中国語教育に関する内容は、新たに様々な指導法にフォーカスを当てた。北京外国語大学の何蔚泓先生が具体例を用い、日本語の語順と中国語の語順の目覚ましい共通性をハイライトした。埼玉県立伊奈学園総合高等学校の藤井達也先生があまり広く知られていない日本の高等学校における中国語教育の現状についてユーモラスな方法で報告した。神田外語大学の植村麻紀子先生はレシピの特有な表現を紹介し、実践的なアプローチを通して読解の方法を説明した。受講者数は29名。

英語教育へ関心を持つ参加者が最も多く、58名であった。最初の講演者は法政大学の川崎貴子先生だった。母語の日本語が如何に英語学習の障害となるのか、そしてその難関の乗り越え方に関わる提案がなされた。次に本学文学部准教授の山川智子先生は多文化的なアングルから異文化への理解の高め方の大切さを参加者に伝えた。最後に、本学教育学部教授の小嶋英夫先生が生涯学習にもつながる「学習者オートノミー」の育成を強調しながら、英語の教員の役割と教育の将来性の親密な関係について熱心に指導した。

最後に、1月13日（水）の異文化体験講演会の講演者として招かれた本学人間科学部人間科学科教授の中村博一先生が西アフリカの食生活という貴重な話を聞かせて下さった。豊富なスライド写真を見ながら、食

生活だけではなく、ナイジェリアなどの教育現況も紹介された。食べ物に対する考え方、市場の様様、食卓のあり方などの減多に見られない光景が興味深く繰り広げられた。